

道



～令和5年春号～

2023年5月に訪れたサグラダファミリアにはマリアの塔が輝いていました

『道』

この道を行けば
どうなるものか
危ぶむ無かれ
危ぶめば道はなし
踏み出せば
その一足が道となり
その一足が道となる
迷わず行けよ
行けばわかるさ

～ タイトル『道』の由来について ～

『道』というタイトルの詩…。元々は、一休禅師の言葉だといわれていますが、一般にはアントニオ猪木が引退セレモニーのリング上で、ファンに送った最後のメッセージとして知られています。

田邊教授は、何か新しいことにチャレンジするとき、いつもこの詩を思い浮かべ、そして新しい道を切り開かんとする若者に、この詩を贈ってきたそうです。

島根大学医学部内科学講座第四も、常に前向きにチャレンジすることを忘れず、ただひたすらに医師としての『道』を進んでいこう…そういう想いを込めて、この『道』というタイトルを選びました。

教授挨拶

内科学講座内科学第四 教授 田邊 一明



2023年5月 バルセロナのカンプ・ノウに戻ってきました

皆様には平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。2023年5月5日にWHOテドロス事務局長は新型コロナウイルス感染症の「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」の宣言を終了すると発表しました。これですべてが元に戻るわけではありませんが、3年間ご苦勞様でした。海外での学会活動も現地へ赴くことを再開し、新しい時代に扉が開かれた思いです。また皆様との交流も通常に戻ってくることを願っています。今後ともご指導よろしくお願い申し上げます。

循環器内科では2023年3月一杯で大内武先生が退職され、4月からご実家の北陽クリニック（出雲）に勤務されることになりました。大内先生には大学病院の心不全カンファレンスを立ち上げていただき、心アミロイドーシス治療の専門としてご尽力いただきました。4月以降も大学病院でアミロイドーシス外来（木曜・午後）を継続していただきます。また、大嶋丈史先生が松江市立病院、川波由佳先生が益田赤十字病院、河野由依先生が浜田医療センターに異動となりました。川波先生、河野先生は内科専門医プログラム連携施設研修の一環です。2023年4月から安田優先生（札幌心臓血管クリニック）、田邊淳也先生（大阪大学循環器内科）に帰局していただき、内科専攻医1年目として竹内健悟先生を迎えました。2023年6月1日付けで公受伸之先生が循環器内科講師に昇任されました。



2023年4月

大学病院は2023年2月に経皮的僧帽弁接合不全修復術（MitraClip）の実施施設の認定を受け、3月に第一例目を実施しました。神戸市立医療センター中央市民病院の岡田大司先生も経食道心エコーの指導に来てくれるなど、賑やかなカテ室でした。6月には第二例目を実施しました。TAVIも2023年5月末までで計175例と順調に症例を重ねております。



2023年3月MitraClip第一例目



大学病院では毎週水曜日に心不全カンファレンスを開催しています。様々な医療専門職が質の高い療養指導を通し、病院から在宅、地域医療まで幅広く心不全患者をサポートしています。心臓リハビリテーション指導士が7名（1名は上級指導士）、2021年春に認定制度がスタートした

心不全療養指導士が6名在籍しています。島根大学病院ならではの心不全研究にも取り組んでいます。

2023年に日本内科学会は120周年を迎えました。2018年の第115回日本内科学会総会・講演会会長をされた河野修興先生（当時広島大学）が「患者さんを最も近い距離で診察し、患者さんに利益をもたらすのが内科医である。医療の中核を内科と呼ぶ。すなわち内科とは本道である」と語っておられました。内科医はいかなる場所に住んでいても医療の恩恵をもたらす存在としての矜持があります。一方で、新専門医制度が始まってから5年が経過しましたが、内科を選択する医師が減ってきています。初期研修の2年間で終了し、3年目に内科を選択する専攻医採用（全国）は2021年度2977名、2022年度2915名、2023年度2859名と2年連続で減少しています。2022年から2023年は中国5県ともに減少しました。内科は3年間のうち1年間は基幹病院以外の関連施設での研修が必要であることや症例登録システムであるJ-OSLERの負担、内科専門医取得後に

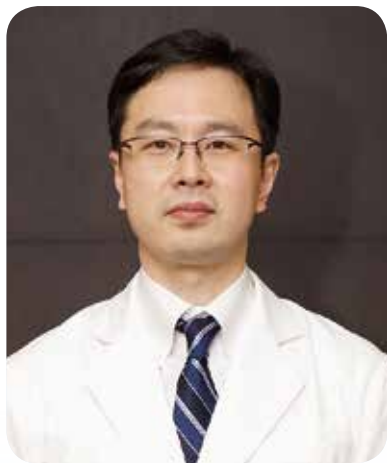
サブスペ専門医（循環器専門医など）取得までの長い道のりなどが敬遠される要因として挙げられています。

松下幸之助さんの「道」が医師道にも通じます。「自分には自分に与えられた道がある。どんな道かは知らないが、ほかの人には歩めない。自分だけしか歩めない、二度と歩めぬかけがえのないこの道。他人の道に心を奪われ、思案にくれて立ちすくんでも、道は少しもひらけない。道をひらくためには、まずは歩まねばならぬ。心を定め、懸命に歩まねばならぬ。それがたとえ遠い道のように思えても、休まず歩む姿からは必ず新たな道がひらけてくる。深い喜びも生まれてくる」。内科が医療の本道であり、深い喜びが生まれてくる仕事であることを伝えていきたいと思ひます。

最後になりますが、2023年3月21日森山勝利名誉教授がご逝去されました。これまでのご指導に感謝し、ご冥福をお祈り申し上げます。

腎臓内科教授就任のご挨拶

腎臓内科教授 神田 武志



令和5年1月1日付けで、内科学講座第四、腎臓内科教授を拝命致しました神田武志と申します。平成9年に慶應義塾大学医学部を卒業し、関連病院における研修を終えた後、医師5年目に母校の腎臓内分泌代謝内科に入局いたしました。高

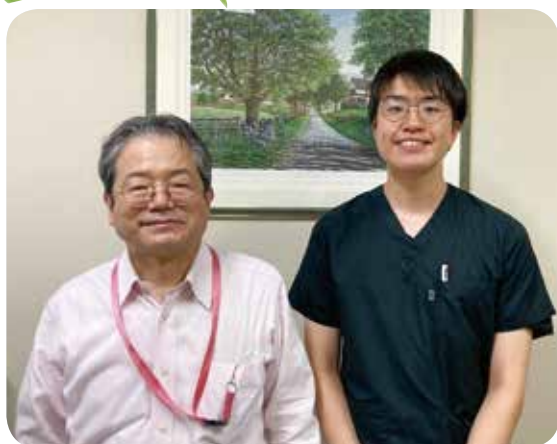
血圧性腎硬化症など高血圧によって引き起こされる臓器障害について研究を行い、平成18年より米国Harvard大学Brigham and Women's Hospitalに海外留学し、血管の高血圧、肥満における役割について研究を行いました。帰国後、地域の中核病院で内科医長として勤務した後、平成

21年より慶應義塾大学の教員として慢性腎臓病について診療、基礎・臨床研究をすすめて参りました。

腎臓は沈黙の臓器といわれ自覚症状が出にくいことが特徴で、慢性腎臓病はeGFRが60ml/分/1.73m²未満もしくは尿蛋白陽性で診断され全国の慢性腎臓病の患者数は1,330万人（成人の約8人に1人）と推計されており、新たな国民病といわれています。慢性腎臓病が悪化しますと透析導入に至りますが、島根県では高齢者の増加も相まって透析患者数は増加し続けています。慢性腎臓病は末期腎不全の危険因子のみならず、心血管疾患の危険因子でもあり、腎機能が低下するほど、蛋白尿が多いほど心血管疾患の発症が高まります。腎臓は1分間に心拍出量の約1/4をろ過しており、心臓・腎臓は密接な関連がございます。循環器内科医と腎臓内科医の在籍する島根大学医学部内科学講座第四の特徴を生かしまして臨床、教育、研究の発展に邁進したいと存じます。今後とも腎臓内科にご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

新入医局員 挨拶

循環器内科 竹内 健悟



今年度より鳥根大学循環器内科に入局させていただきました竹内健悟と申します。鳥根大学40期卒業で、益田赤十字病院で初期研修を2年間行いました。初期研修医の2年間にACSや心不全で重症な状態から治療を経て社会に復帰される患者様の姿を見て自分も循環器医療に携わりたいと思い入局させていただきました。またカテーテル・エコー・薬剤など多彩な検査や治療があることも魅力的に感じております。働き始めてからの2ヶ月は理想には程遠く皆様にご迷惑をおかけするばかりの日々ですが、先輩方の熱心・丁寧なご指導のおかげで充実した毎日を送ることができています。一人前の循環器内科医になれるよう一歩ずつ精進して参りますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

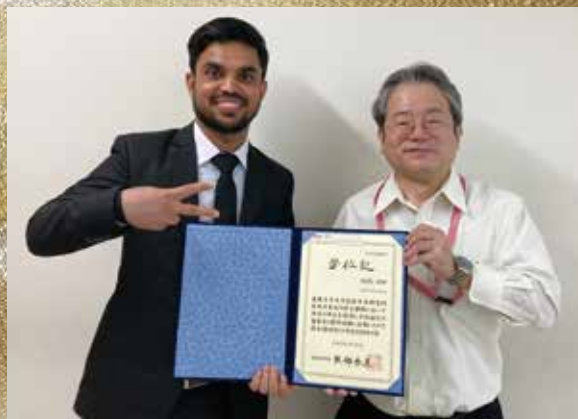
業績

論文・著書・総説 (2023年秋号以降掲載、掲載決定分)

1. Okada T, Asanuma T, Nakatani S, Tanabe K. Ultrasound beam angle-independent evaluation of left ventricular filling pressure using three-dimensional speckle-tracking echocardiography. *Eur Heart J Cardiovasc Imaging* 2023. Feb 2; jead004
2. Kawanami Y, Kawahara H, Endo A, Yoshitomi H, Tanabe K. Pneumopericardium resulting after pericardiocentesis. *Circ Rep* 2023;5:164-165
3. Yasuda Y, Ishiguchi H, Yamaguchi M, Murakami K, Kinoshita N, Kato T, Yoshida M, Imoto K, Sonoyama K, Kawabata T, Okamura T, Endo A, Kobayashi S, Yano M, Oda T, Tanabe K. Incidence of mid-term prognostic events in patients with acute coronary syndrome during the late-2010s in two tertiary hospitals in a rural area of Japan: A temporal comparison. *Circ Rep* 2023;5(5):198-209
4. Fukunaga S, Naito Y, Hoshino Y, Oba M, Kawanishi M, Yoshikane K, Egawa M, Ito T, Tanabe K. Indications for percutaneous drainage in patients with Huang Class 3B emphysematous pyelonephritis: a case report and literature review. *Intern Med* 2023 Feb 15
5. Fukunaga S, Egawa M, Ito T, Tanabe K. Zebra body not caused by Fabry disease. *Intern Med* 2023 Mar 31
6. Fukue N, Ishida M, Taniyama M, Mukai-Yatagai N, Sakamoto T, Tamada T, Suetomi T, Tanabe K, Nakano Y. Factors influencing acceptance of the chairperson position at annual scientific meetings of the Japanese Circulation Society. A questionnaire survey in Chyugoku district. *Circ Rep* 2023;5:560-264
7. Fukunaga S, Egawa M, Ito T, Tanabe K. Occurrence of fever in cell-free and concentrated ascites reinfusion therapy is not related to the primary disease or nature of ascites. *Journal of Artificial Organs* (published online: May 13, 2023)
8. Kawanami Y, Yamaguchi K, Yamasaki S, Kagawa Y, Sato H, Watanabe N, Endo A, Yoshitomi H, Tanabe K. Dasatinib-related left ventricular dysfunction in a patient with chronic myelogenous leukemia. *J Echocardiogr* 2023 (published online: June 14, 2023)
9. 公受伸之、中村 恩、古志野海人、田邊一明. 家族のスクリーニング検査により肺動静脈瘻が確認されたオスラー病の1家系. *鳥根医学* 2022;42(3):63-68

1. 森田祐介、鹿島由史、遠藤昭博、菅野大太郎、八戸大輔、杉江多久郎、川原 洋、香川雄三、藤田 勉、田邊一明. Incidence, treatment, and outcomes of burr entrapment during rotational atherectomy. 第87回日本循環器学会学術集会. 2023.3.10-12、福岡
2. 田邊淳也、岡崎浩一、前田篤慶、嘉戸智啓、小田原美穂、中本 敬、赤澤康裕、世良英子、溝手 勇、大谷朋仁、彦惣俊吾、田邊一明、中澤芳夫、坂田泰史. The effectiveness of medical therapy for patients with HFpEF in a super-aging society. 第87回日本循環器学会学術集会. 2023.3.10-12、福岡
3. 坂本考弘、内田利彦、遠藤昭博、田邊一明. Significance of B-lines by lung ultrasounds for evaluating left ventricular filling pressure. 第87回日本循環器学会学術集会. 2023.3.10-12、福岡
4. 川原 洋、河野由依、川波由佳、山崎誠太、坂本考弘、森田祐介、大嶋丈史、公受伸之、山口一人、香川雄三、大内 武、渡邊伸英、遠藤昭博、吉富裕之、田邊一明. Which of low-density lipoprotein cholesterol, oxidized low-density lipoprotein, apolipoprotein B, and fatty acid ratios relate most to ischemic heart disease? 第87回日本循環器学会学術集会. 2023.3.10-12、福岡
5. 川波由佳、吉富裕之、河野由依、山崎誠太、森田祐介、川原 洋、大嶋丈史、香川雄三、大内 武、渡邊伸英、山口一人、遠藤昭博、田邊一明. A case of transcatheter aortic valve implantation in patients with aortic stenosis and mitral stenosis with severe mitral annulus calcification. 第87回日本循環器学会学術集会. 2023.3.10-12、福岡
6. 古志野海人、内田利彦、田邊一明. Myocarditis complicated by anti-synthetase syndrome: two cases. 第87回日本循環器学会学術集会. 2023.3.10-12、福岡
7. Endo A, Oda T, Shirota K, Akashi S, Yamashita S, Uchida T, Ohta T, Nakazawa Y, Tanabe K. Current status of super advanced aging society -Shimane ACS registry-. 第87回日本循環器学会学術集会. 2023.3.10-12、福岡
8. 河野由依、大内 武、吉富裕之、川波由佳、山崎誠太、山口一人、坂本考弘、森田祐介、川原 洋、大嶋丈史、香川雄三、渡邊伸英、遠藤昭博、田邊一明. ピロリン酸シンチグラフィで偽陽性となったミトコンドリア心筋症の一例. 日本心エコー図学会第34回学術集会. 2023.4.21-23、岐阜
9. 山崎誠太、坂本考弘、山口一人、遠藤昭博、吉富裕之、田邊一明. 収縮性心膜炎を呈し、肝機能障害の鑑別にエラストグラフィが有用であったIgG4関連心膜炎の一例. 日本心エコー図学会第34回学術集会. 2023.4.21-23、岐阜
10. 川波由佳、香川雄三、大嶋丈史、大内 武、佐藤寛大、渡邊伸英、山口一人、遠藤昭博、田邊一明、吉富裕之. 骨髄異形成症候群の経過中に肺動脈性肺高血圧症を合併した1例. 第128回日本内科学会中国地方会. 2023.5.21、岡山
11. <奨励賞受賞>坂本考弘、浅沼俊彦、嶋本光兵、北井 豪、内田利彦、天野雅史、泉 千里、田邊一明. 肺エコーによる左室充満圧推定の臨床的意義. 日本超音波医学会第96回学術集会. 2023.5.27-29、大宮
12. 山崎誠太、河野由依、川波由佳、森田祐介、川原 洋、大嶋丈史、香川雄三、佐藤寛大、大内 武、渡邊伸英、山口一人、吉富裕之、公受伸之、遠藤昭博、田邊一明. 収縮性心膜炎を呈したIgG4関連心膜炎の一例. 第122回日本循環器学会中国・四国合同地方会. 2023.6.3-4、松山
13. 竹内健悟、古志野海人、黒田紘章、内田利彦、田邊一明. オンライン処方を経口避妊薬内服中に肺塞栓を発症したプロテインS欠乏症の1例. 第122回日本循環器学会中国・四国合同地方会. 2023.6.3-4、松山

学位が授与されました



腎臓内科・芦村龍一先生が” Frequency of Alcohol Drinking Modifies the Associations of Salt Intake With Blood Pressure and Albuminuria: A 1-year Observational Study”のタイトルで学位論文を発表され、医学博士の学位が授与されました。修士課程のRasel Miah氏（バングラディシュからの留学生）は2年間の課程を修了し、修士の学位が授与されました。Miah氏は4月から博士課程に進まれました。おめでとうございます。

学会報告 Echo Hawaii 2023

田邊 一明



2023年1月16日～1月20日ハワイ島のWestin Hapuna Beach Resortで開催されたEcho Hawaii 2023に参加してきました。川波由佳先生、河野由依先生には中断していました新入局の海外研修旅行として同行していただきました。3泊5日の日程で滞在期間は短かったですが、非日常を体験できました。

Echo Hawaiiは朝7時から正午まで講義や症例提示、午後はフリーというプログラムが月曜日から金曜日まで繰り返される講習会ですが、私たちは1月17日(火)、18日(水)の2日間の出席でした。会場には朝食が準備されており、まだ暗い中の朝食が始まりますが、昼は刺すような日差しになりました。講師はアメリカ心エコー図学会の会長を歴任した先生方が中心で、久々に英語のシャワーを浴びました。印象に残ったのは経カテーテル僧帽弁置換術、僧帽弁生体弁のvalve in valveをやっていたのと、三尖弁も経カテーテル置換術の弁が多く種類開発されており、どれが生き残るのかということでした。弁膜症の治療はしばらく経カテーテル治療の時代のようなようです。



Mayo ClinicのOh先生のHFpEFの診断に運動負荷エコーが必要という講義ではE/A、E/e'、TRPGに肺エコーも併せてみました。Oh先生がエコーの講習会で残念なニュースとして「AIが心電図からHFpEFを100%診断した」と笑わせました。往復の機内でトッパン・マーヴェリックを計3回観ましたが、「戦闘機パイロットはいずれ必要なくなる（無人機の時代になる）」という上官の言葉に対して、トム・クルーズの“Not today”という台詞が、心エコーは必要なくなるかもしれないが“Not today”と重なりました。今を生きる私たちはAIも視野に入れながら、地道に頂上を目指して登り続けるしかない、あらためて感じました。



学会報告 第87回日本循環器学会

田邊 一明



第87回日本循環器学会が3月9日～12日、福岡で4年ぶりに完全現地開催されました。初日3月9日の時点で参加登録が1万5千人と以前に戻ったような賑わいでした。福岡国際会議場からマリンメッセの会場に移動するのに5分ほど歩くのですが、多くの人が行き交い、パソコンの画面から飛び出した解放感と高揚感に包まれた3日間でした。医局関連では7演題の発表でした。久々に博多の夜に医局員で集合して楽しい時間を過ごすことができました。



学会報告 EACVI 2023 報告

田邊 一明

2023年5月10日～12日バルセロナで開催されたEuropean Association of Cardiovascular Imaging (EACVI) 2023に日本心エコー図学会 (JSE) とのジョイントセッションで参加してきました。ジョイントセッションは“Echocardiographic evaluation of cardiac mechanics”のタイトルで開催され、JSEから筑波大学・山本昌良先生、手稲溪仁会病院・岩野弘幸先生の2名、EACVIからはフランスのErwan Donal先生が演者として、そして座長は田邊とフランスのJulien Magne先生を務めました。

ジョイントセッションは多くの聴衆で、日本からのお二人の先生方も緊張感が増したと思いますが、堂々と講演され、今後の世界的な活躍が期待されました。医局からは田邊淳也先生が大阪大学での研究であるLVAD装着前の胸部CTで評価した胸筋筋肉量が装着後の早期再入院と関連する内容でポスター発表されました。

バルセロナ市内には人があふれているにも関わらず、以前見られた日本人も含めてアジアからの観光客にほとんど会うことがなく (今はアメリカ人観光客が多いとのことでした)、ロシア上空が飛べない航路の関係から長い移動時間や航空運賃、燃料サーチャージの高騰と円安がヨーロッパをより遠くにしてしまっている印象でした。それでもまた交流が再開できたことを喜びたいと思います。やはり人と会って話をするのはいいなと思いました。



同門会長 挨拶

佐藤内科クリニック
佐藤 秀俊



例年より早く梅雨入りした立夏の候、同門会員、そして医局員の皆様には益々御清栄の事とお慶び申し上げます。新型コロナ感染症が徐々に感染縮小の様相を見せ、本年5月8日には感染症法分類第5類に変更になり、随所で感染拡大前に近い生活様式になってきております。しかしウイルスが消滅したわけでも感染が完全に無くなったわけでもなく、皆様には変わらず発熱や感染を疑う患者さんの診療に当たられ、またワクチン接種などご苦労が多々あるものとお察しいたします。どうかご自愛くださいますようお願い申し上げます。とは言え、学会や研究会は対面で開催されるようになり、オンラインとは違った臨場感に喜びを感じます。例年5月に開催しております春の田邊杯ゴルフコンペ（医局コンペ）は、昨年から開催を再開し、田邊教授をはじめ医局員、同門会員の参加で久しぶりに楽しくラウンドすることが出来ました。これもゴルフ幹事の井上副会長のご尽力によるものと感謝しております。今年も6月11日に開催される予定で鋭意準備中です。今回も同門会と医局の交流の場として楽しく語らいながらラウンドできることを願っております。

同門会総会についてですが、本年11月4日土曜日に現地開催で予定しております。昨年は現地とオンラインでの開催となりましたが、今回の同門会総会では医局の先生方と我々同門会員が久しぶりに直接お話しし会食する会合になります。また、前回までは島根心腎血管研究会に続いて同門会総会を開催しておりましたが、時代の流れで研究会を製薬会社が協賛して行うことができなくなりました。田邊教授とご相談し、発展的解消として島根心腎血管研究会は終了し、本年の同門会総会を第一部で同門会員あるいは医局員の学術講演会を行い、第二部で同門会総会、食事会を行うことといたしました。詳細が決まり次第ご案内いたしますので、たくさんの皆様のご参加をよろしくお願いいたします。これからも更に内科学講座内科学第四が発展することを願い、同門会として全力で応援させていただきます。

今後とも私と井上副会長に皆様のお力添えをいただきますようどうかよろしく願い申し上げます。



第27回第四内科田邊杯ゴルフコンペ結果報告

同門会ゴルフ幹事 井上 慎一

令和5年6月11日、第27回田邊杯がいつも大社カントリークラブで開催されました。梅雨晴れの空の下、10名の先生方にお集まり頂きました。

今回も全ての先生に優勝の可能性があるレベルの高い戦いでしたが、3連覇が掛かった後藤泰利先生が佐藤寛大先生の激しい追い上げを振り切って優勝されました。実力が無ければ達成出来ない結果です。おめでとうございます。ドラコンは田邊一明先生、佐藤秀俊先生、ニアピンは田邊一明先生、後藤泰利先生、森田祐介先生、井上が獲得されました。竹内健悟先生、初参加ご苦労様でした。初ラウンドとは思えない紳士的な落ち着いたプレーとその結果に驚きました。また、北村 順先生ははるばる神戸から駆けつけて頂き終始コンペを盛り上げて下さいました。

ご参加頂いた全ての先生方、大変有意義な時間を頂き誠にありがとうございました。

次回は令和5年11月5日（日）、同門会翌日に開催予定です。多くの先生方の御参加を心よりお待ちしております。



順位	競技者名	out	in	GROSS	HDCP	NET
優勝	後藤 泰利	42	44	86	13.2	72.8
準優勝	佐藤 寛大	44	51	95	21.6	73.4
3位	森田 祐介	56	47	103	28.8	74.2
4位	井上 慎一	44	44	88	12.0	76.0
5位	田邊 一明	66	58	124	45.6	78.4
6位	波多野 淳	68	60	128	49.2	78.8
7位	北村 順	56	47	103	24.0	79.0
8位	佐藤 秀俊	67	58	125	44.4	80.6
9位	山口 直人	59	57	116	33.6	82.4
10位	竹内 健悟	75	82	157	50.0	107.0



道

編集後記

2023年5月にバルセロナを訪れ、FCバルセロナ（バルサ）の本拠地であるカンプ・ノウを見学しました。今回で3回目になります。一人€33でスタジアム内の博物館やスタジアムの見学ができ、選手がピッチに登場する通路を実際に歩いてピッチの横まで出ることができます。博物館には歴代の優勝カップや名選手のユニフォームやシューズなどが陳列してあります。写真はイニエスタ選手がバルサでの最後の試合に着用したユニフォームです。ヴィッセル神戸に移籍し、何度かプレーをこの目で見ましたが、ボールに魔法をかけたような鮮やかさで魅了します。滞在中の5月11日が39歳の誕生日で、テレビではイニエスタ選手の特集をしており、スペインでも依然として愛されていることがわかりました。今夏に神戸を退団しますが、カンプ・ノウの大歓声に包まれてプレーした偉大な選手が日本に来てくれたことに感謝します。カンプ・ノウは改修に入るそうで、次シーズンは使用されません。新装なれば観戦に訪れたいと思います。（田邊）



島根大学医学部内科学講座内科学第四

循環器内科・腎臓内科

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町89-1

電話 (0853) 20-2206 (医局資料室ダイヤルイン)

Fax (0853) 20-2201 (医局資料室)

循環器内科ホットライン 070-5672-8109

URL: https://www.med.shimane-u.ac.jp/internal_med4/index.html